

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070102789		
法人名	社会福祉法人 三田福祉会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム すこやか 1階 フルーツ		
所在地	和歌山県和歌山市和田592-6		
自己評価作成日	2022年7月29日	評価結果市町村受理日	令和4年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和4年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

目くばり 気くばり 思いやりをモットーに職員一同 利用者様と一緒に日々の生活を過ごしています。勤続年数が長い職員もおり利用者様や家族様とも顔なじみで安心して頂けている部分もあるかと思えます。毎日の洗濯物を畳んだり干したりするのもお手伝い出来る人の日課となり 食後の椅子拭きなども手伝ってくれています。出来る事はお手伝いしてもらっています。毎日の入浴も開設当初から行っています。コロナ禍になり行事は出来ていませんが4月にはお花見をしながらご家族様と食事をとる家族会・7月には特養と合同で夕暮れから始まる ご家族様と一緒に外での すこやか夏祭り家族会・9月には敬老会を兼ねたの家族会・12月には忘年会を兼ねたの家族会と年間に4回の家族会を実施しています。来れるご家族様に参加して頂いて一緒に食事をして頂き楽しい時間を過ごして頂いています。外食や買い物にも行きますがコロナ禍で行けない分 食事作りで楽しめるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設する3つの事業所が合同で毎月職員研修や委員会を開催し、職員の意識アップに取り組んでいる。また、コロナ禍で外出する機会が少なくなった利用者や、事業所の敷地内で行える流しソープやお月見・花火などを行ったり、おやつもホットプレートを使ったこ焼きや手作りのお団子と一緒に作って楽しんでいる。また、リビングでの時間を利用して、職員と一緒に季節の飾り物を作成し展示している。利用者は生活の各場面でそれぞれの能力を発揮する場面が多く、活き活きとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の時に話しあったりリビング・事務所にも掲示しています。	理念については職員間でもよく話し合うことで共有しているが、さらにリビング事務室等に掲示することで意識し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍の為 あまり交流は出来ていないが 近所の方が畑で出来た野菜や花等を持ってきてくれています。	地域の住宅地の方が、トマト、ナスなど夏野菜は頻繁に、先日は新米も持ってきてくださった。玄関を開けると利用者にも顔が見えて、今はまだ会話はできないが、気持ちは繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席して頂いている推進委員の方が地区の役員の方なので理解してもらえるよう話しを聞いて頂いてもらってます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1度開催しています。コロナ禍で中止の月もありますが開催して施設内の状況の報告等しています。	コロナの感染状況により、地区の会長、包括支援センター職員に加えて、利用者も参加して開催している。中止の際はいつもの参加者や遠方のご家族にも会議録を郵送あるいはFAXしご意見を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことや相談事などがあれば連絡をしています。	運営推進会議を通じて事業所の状態をよく理解しているので、相談もしやすく、協力関係もできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう取り組んでいます。	併設の事業所と年2回会議を行い、職員間の意識を高めている。利用者に対して職員数が多いので、利用者だけでなく職員間での目配り・気配りができやすい。言葉使いなど気になる際は話し合いをよくするように心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用している入所者の方もおられたので成年後見人制度について色々話しを聞かせてもらったりしました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い理解して頂き納得して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様・ご家族様のご要望に応えられるように努めています。	ご家族には書類にサインをいただく関係で、少なくとも2か月に1回は訪問していただいている。その際利用者の状態を見ながら、また遠方の方は電話で状態を伝え、ご意見をいただき要望に応じるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常のコミュニケーションや会議等で職員全体が意見交換等できています。	改まったの個人面接はしていないが、勤務年数の長い職員間でお互い気心が知れていることもあり、現状に関して積極的な話し合いができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加した際に情報交換等していますがコロナ禍で交流機会は減っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時に話しを聞き入所後も不安がないように寄り添うよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談時に話しを聞き入所後もご利用者様の状況報告をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や問い合わせ時に話しを聞き他のサービス等の説明もしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はしてもらい出来ない事はお手伝いしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1カ月に1度もしくは最低でも2カ月に1度は書類等のサインがあるので訪問してくれています。コロナ禍でリビングに入ってくるのは控えて頂いていますが玄関先などでお話ししてもらったり顔を見れるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でできていませんが 通常は居室で一緒に過ごして頂いたり 外出して頂いたりしています。	毎年敬老の日に趣向を変えてカードやうちわ等に写真を貼り、一言書いた物を家族や知人に送っている。また、先日は利用者の希望で家族のお葬式に参列する支援ができた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングで過ごして頂いてくれる方がほとんどなので みんな一緒に過ごしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援が出来るようにつとめています。実際退所された方・亡くなられた方のご家族様が雑巾や手作りマスクやオムツ等を持って来てくれたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の思いや意向を聞いて把握するように努めています。	意思の疎通のできにくい方もいるが、その利用者とは10年間の関わりがあり、利用者の思いや意向はよく理解できているので、ご家族とも相談し支援を行っている。また、入所したての方でなかなか自分から話していただけない利用者には、根気強くお話をお聞きしていくことで、折り紙や塗り絵をしたいといわれる方もいた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談時にご本人・ご家族様から話しを聞き入所後も日々の生活の話の中で今までのことなどを聞いたりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の面談時におはなしを聞かせてもらい入所後 日々の生活の中でご本人の現状の状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思いや意向を聞き職員間で話し合い介護計画を作成しています。	医師や看護師の意見を反映しているが、毎日の食事の量の変化や失禁があることなどで体調の変化や感情の揺れを見逃さずしっかり記録している。継続する変化ではないか職員で共有し、話し合うことで現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの個人の課題ノートを作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じて対応するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援しています。コロナ禍以前は年間2回～3回程度来て頂いたりしていました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を聞き今まで診てもらっていたかかりつけ医をきぼうされる場合は継続して入所後も往診にきてもらったりしています。	かかりつけ医には2週間に1回往診を依頼している。利用者の状態の突発的な場合は通院を家族に連絡し職員が付き添うようにしている。結果は家族にすぐ連絡し、職員には申し送り伝え、記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取って支援しています。毎週1回訪問看護にきてもらっています。突発的な事は隣接の特養の看護師に来てもらうこともあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院できるよう地域連携室等と連絡を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制を活用して重度化した場合はご本人様・ご家族様の意向を確認しながら思いを尊重出来るように医師と相談し職員間で支援に取り組んでいます。	事業所に「看取りに関する手順」という説明書があり、入所段階から事後段階までの詳しい内容がある。週1回の訪問看護師と医師も含めての利用者の状態を共有し、都度、ご家族の意向を確認しつつ支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っています。	道を挟んで川が流れており、水害の起こりやすい地区なので、避難訓練は夜間対応も含めて利用者も参加して年2回行っている。運営推進会議に参加している地区の副会長が消防団の方なので、消防団との連携の話も進んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活している中で他人行儀にならないように、でも馴れ馴れしくならないように、そのご利用者様にあった声掛けを行うよう心がけています。	毎年同法人の他事業所とのマナー研修があり、それに伴い、内部にはプリントを配布し会議で話し合っており、利用者や家族の要望に合った声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の会話の中で、思いや希望などを聞けるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段は1日を通して自分の思うように過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援に努めています。お化粧をしたり爪をきれいに塗ったりと、やりたいと言う方には時々しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍なので外食に行けない分、流しそうめん・バーベキュー・手作りハンバーガーや色々工夫して喜んで頂いています。	外食の楽しみが無くなった分、メニューと一緒に考えたり、買い物のついでに利用者の好きなパンや甘いものを買ってきたりしている。食後は利用者の力量に合わせて、下膳やテーブル拭きやテーブル周りのお掃除まで職員と一緒に片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量等、記録して把握しています。体調に応じて食事形態・食事内容・食事量を考慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い口腔内の状態の把握に努めています。状態の悪い人・希望する方には歯科往診してもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの声掛け・誘導をして失禁回数が減るよう心がけています。	退院時リハビリパンツ使用の方も含めて、尿意のある方が2名いるので、体調の良いときは布製の下着を着用されている。半数の利用者が、自分からトイレに行きたいと言われる。夜間はポータブルトイレを居室に置かず、トイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録簿を確認しています。一日に午前と午後は廊下を往復して運動をしたりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は毎日入浴しています。時間帯は夕方4時前後と決まっています。	ほとんどの利用者が毎日入浴される。時には嫌がる利用者もいるが、入浴しなくても着替えをするので、その時お誘いするとほとんど入浴され、気持ちよさそうにしている。時には菖蒲湯ゆず湯を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一人ひとり寝たい時間に寝ています。お部屋でテレビを見て過ごす人 ラジオを聞く人など 人それぞれです。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表にファイルして職員がいつでも見れるようになっています。体調に変化があれば主治医に相談して処方してもらいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯・裁縫・編み物・音楽を聴く等 自分が出来る事 したいことがあればしてもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で難しいですが今年になって個別で買い物にいったりできました。外食はまだできていません。散歩・外気浴は頻繁に行っています。外の空気を吸って太陽を浴びています。	事業所の周囲にゆったりとした空間があり、玄関前の広場や駐車場など遠出はできなくとも昼間は散歩や外気浴を頻繁に行っている。夜は皆で椅子を持ち出しお月見や花火を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援しています。買い物に行くときは お金を渡して自分で支払ってもらいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援しています。電話をかけることが多いです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に飾りつけを作ったりしています。	大きなガラス戸からの明かりが差し込み、多くの利用者がほとんどの時間をリビングで過ごすため、食事用のテーブル以外にもたくさんのソファを置き、自由に過ごせるようにしている。時には職員も一緒になって季節の飾り物を作成し、楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座る人 椅子に座る人 自分の思うところで過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	相談しながら良い空間作りが出来るように努めています。	居室にはベッドが置いてあり、壁には家族の写真や手作りの作品等が飾ってある。利用者・家族によってはテレビやダンス、中には小さな仏壇の持ち込みもある。また、居室は内側から施錠もできるようにしており、居心地よく安心して過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のないバリアフリーになっています。		